

一般社団法人日本CFO協会2021年度事業報告書

自2021年4月1日 至2022年3月31日

1. 事業報告

ポストコロナと言われる新しい時代に入り、人々の消費行動や価値観が変容してきました。また、ここ数年で加速した気候変動や環境破壊、格差の拡大、人権問題といった、これまでの資本主義が積み上げてきた歪が社会全体に広がり、サステナビリティが大きな課題となりました。企業経営においては新しい時代を見据え、企業戦略を経営理念や存在意義にまで立ち返って変革することが求められています。CFOや経理・財務部門への期待はこれまで以上に高まり、その役割も従来の財務情報のみならず、将来のビジネスの先行指標となる非財務情報にまで広がりました。

また、本年2月にはウクライナ情勢が激化したことを契機に地政学上のリスクが顕在化し、グローバルレベルでのリスクマネジメントが喫緊の課題となりました。

このような先行き不透明な経営環境の中でCFO機能を担う会員の皆様に支援させて頂くべく、会員の皆様の関心の高いテーマを取り上げて当期も様々なサービスをご提供させて頂きました。具体的な活動内容は以下の通りです。

(1) 教育・啓蒙活動

- ・ 会員に対する情報提供の場として開催しているCFOセミナーを、以下の通り計14回開催しました。

(開催日)	(セミナータイトル)
5月20日	財務部門のデジタルトランスフォーメーション (DX)
6月03日	「紙文化」から脱却できない経理の欠点とは!?
6月17日	「アメリカで今何が起きているか?」
9月02日	コロナ後のグローバル経営管理
9月16日	企業成長に求められる戦略的投資に向けた財務DX
10月07日	変化対応力を創出し、財務体質、収益性、現場力を強化するための戦略的管理会計
10月21日	経理領域におけるAI活用の要諦
11月04日	コロナを経た中国のビジネス現場の様子、これからの展望
11月18日	運転資金の高効率化を支える CCC管理とPDCAサイクル構築のポイント
1月20日	テレワーク時代に適したITシステム上の認証方式 (企業確認方式)
2月03日	効果が体感できるDX
2月17日	ニューノーマル時代における財務経理業務へのHigh Value BPOの活用
3月03日	CFO組織が実施すべき不正検知PDCA～
3月17日	上場企業の経理責任者からみたDX化とは

- ・啓蒙活動の観点より会員の方以外にも対象を拡大し広くご案内を行ったイベントとして、当期も以下のイベントを開催しました。

秋のスペシャルイベントCFO X!! (9月14日、15日、16日、17日)

CFOフォーラム・ジャパン (12月14日、15日、16日、17日)

デジタルファイナンス・フォーラム「デジタル時代の経営・財務マネジメント」(11月25日)

特別フォーラム 海外主要企業が進めるマイノリティー出資戦略とは(3月16日)

デジタルファイナンス・フォーラム「サステナブル時代の経営・財務マネジメント」(3月18日)

- ・法人会員を対象としたCFO相当の役員に限定した朝食会「CFOラウンドテーブル」は、オンライン形式で再開し2回開催しました。また、次世代のCFOを担う方々を対象とした勉強会「次世代CFO会議 (Next CFO Society)」もオンラインにて5回開催しました。

CFOラウンドテーブル

5月12日 ESGとCFP (Corporate Financial Performance),
データサイエンスによる資本政策の評価

6月2日 コロナ後の世界経済をどう見るか

次世代CFO会議 (Next CFO Society)

第1回 CFOが果たすべき役割

第2回 日本企業のCFOが直面する企業価値低迷の原因

第3回 CFOとして自立する必要性

第4回 CFOが身につける武器

第5回 CEOとの関係 (距離感)

※3月22日に次世代CFOフォローアップ会議を開催しました。

- ・昨年度は新型コロナの影響で中止した多摩大学の寄付講座として開催している「ベンチャーCFO講座」はオンラインで開講しました。
- ・「コーポレートトレジャリー入門講座」
体系的に国際資金・財務を理解するための「コーポレートトレジャリー入門講座」を英国TMI社との提携のもとオンラインで公開しました。
- ・「若手が描く未来コンテスト」
経理・財務の若手が1つのテーマについてチームでアイデアや具体的な施策を考え、プレゼンするイベント型研修「若手が描く未来コンテスト」を2回開催致しました。
- ・オンライン情報誌「CFOFORUM」を毎月発行しました。

(2) 資格・検定活動

- ・一般社団法人金融財政事情研究会と共同で実施しているプロフェッショナルCFO資格試験の受験者数は1,224人と前期比644人の増加となり、受験者は累計3,687人になりました。

- ・ 経済産業省経理・財務人材育成事業経理・財務スキル検定（FASS検定）の受験者数は5,162人と前期比651人の増加となり、受験者は累計73,778人になりました。
- ・ 専門性の高い実務領域のスキルを可視化するための連結決算実務検定の受験者は80人と前期比45名の減少となり、受験者数は累計で441人になりました。
- ・ 米国の財務教育団体AFP（Association for Financial Professionals）との提携のもと、分析、予測、計画の策定、業績報告といった経営・事業の意思決定プロセスを出題範囲とした新しい検定試験として昨年度導入した「経営企画スキル検定（FP&A）」の受験者は157人となり、昨年比95名の減少となり、受験者数は累計で425人になりました。
- ・ 当期末時点における資格認定者数は、ジェネラルCFOが361人、グローバルCFOが240人、プロフェッショナルCFOが346人、スタンダードCFOが303人となり、CFO資格認定者は合計で1,250人となりました。

（3）調査・研究活動

- ・ 経営・財務分野のさまざまなベンチマーク情報を提供する目的で「財務マネジメント・サーベイ」を以下のテーマにて4回実施しました。

経理部門のDX推進に向けた実態と課題（5月18日～6月4日）

DX推進に向けた経理・財務部門の挑戦（10月14日～10月29日）

コーポレートガバナンスの強化とITシステムの貢献（12月22日～1月31日）

グループガバナンスと事業ポートフォリオマネジメント2022（2月22日～3月11日）

（4）会員数

- ・ 個人会員の新規入会者数220人、法人会員の新規入会社数25社で、当期末の会員数は個人会員が1,949人、法人会員は230社となりました。

（5）損益の状況

- ・ 売上高は126,889千円と前期比18,271千円増加しました。
会員事業につきましては、入会金収入は6,005千円と前期比1,975千円の増加、会費収入は68,768千円と前期比3,819千円増加しました。検定事業につきましては、受験料収入は43,706千円と前期比10,287千円増加しました。
- ・ 費用につきましては、90,461千円と前期比770千円減少しました。
- ・ 営業利益は36,428千円と前期比19,041千円増加しました。当期純利益は36,736千円と前期比で19,369千円の増益となりました。

2. 2022年度の活動

（1）活動計画

新型コロナウイルス感染症の状況が見通せない厳しい状況ではありますが、オンライン・ツールを積極的に活用することで、付加価値が高いクリエイティブな仕事へと会員の皆様が取り組んでいけますよう活動を充実させていく予定です。

コロナ禍での課題として浮かび上がったテレワークやデジタル化推進についての具体的支援を継続させて頂くと共に、不透明な将来予測を支援するための経営管理基盤の強化やFP&A機能の実装に向けたテーマをはじめ、資格認定、教育、調査研究、コミュニケーションそれぞれの事業分野において活動を行っていく予定です。

(2) 事業予算

2022年度は、入会金収入6,600千円、会費収入72,000千円、受験料収入45,000千円と、売上高は133,000千円を予定しています。費用につきましては96,122千円、税引前利益は36,878千円を予定しています。

以 上